

経営比較分析表（令和2年度決算）

京都府綾部市 綾部市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
指定管理者(代行制)	21	対象	ド透I未訓方	救臨へ
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
32,851	17,662	-	第2種該当	7:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

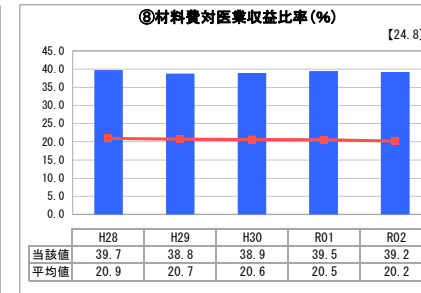
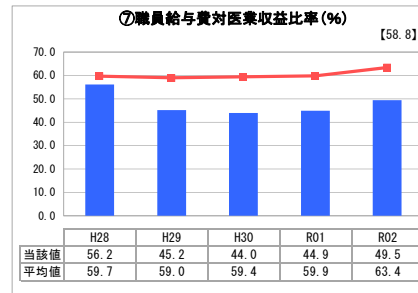
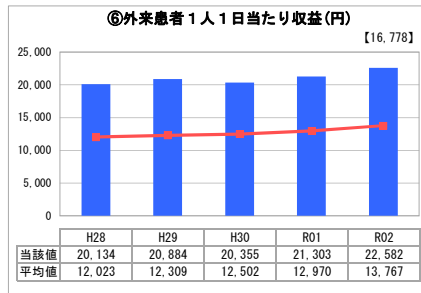
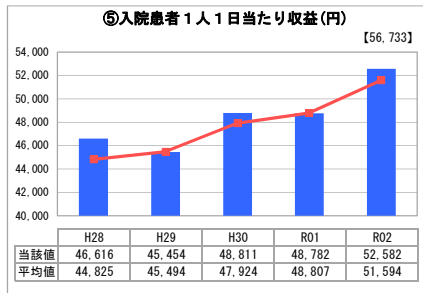
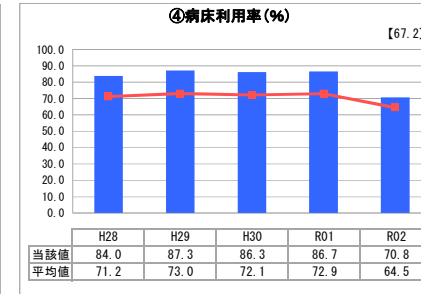
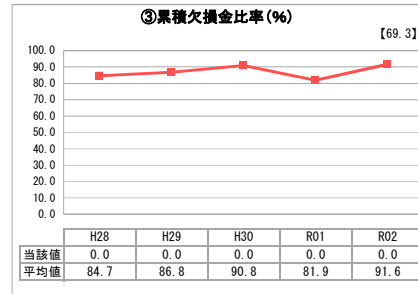
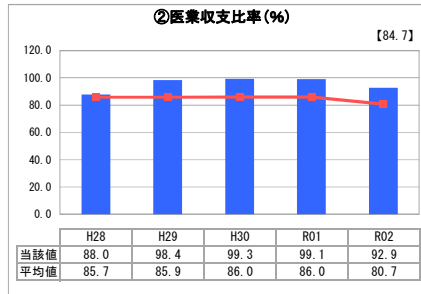
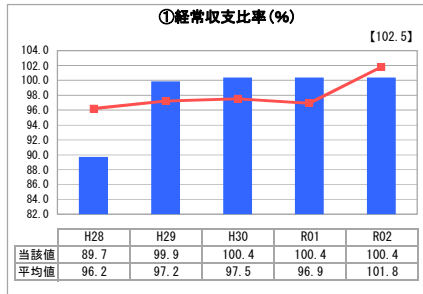
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
206	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	206
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
206	-	206

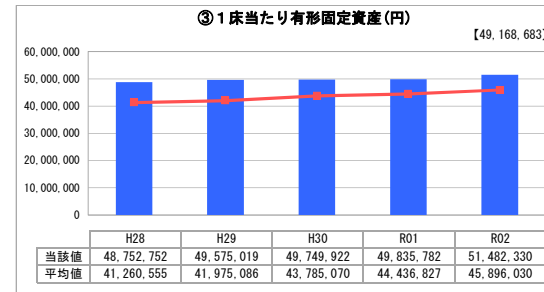
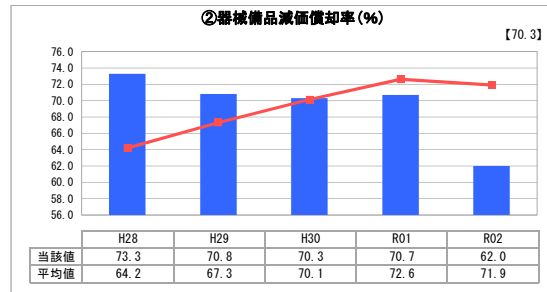
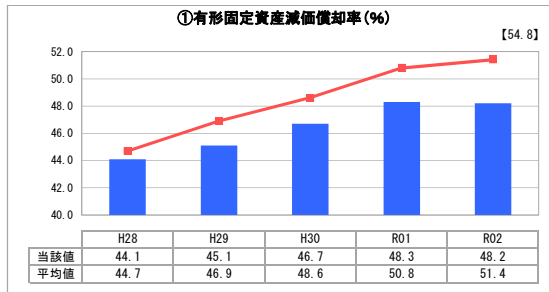
グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	平成18
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

綾部市立病院は市内唯一の公立病院であり、急性期の地域中核病院としての役割を担っています。また、平成28年5月からは地域包括ケア病棟を50床導入し、回復期・慢性期病棟も望む地域ニーズに応える病院となっています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、前年度に引き続き100%を上回り、単年度収支が黒字となっています。
 ② 医業収支比率については、類似病院平均値より高い値となっており、効率的な医業活動が実施できています。
 ③ 累積欠損比率は、類似病院平均値を大きく上回っており、効率的なベッドコントロールが実施できていますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症による受診控え等の影響により、前年度と比べて大きく低下しました。
 ④ 病床利用率は、類似病院平均値を大きく上回っており、効率的な病床運営が実施できています。
 ⑤ 入院患者1人1日当たり収益及び⑥ 外来患者1人1日当たり収益は類似病院平均値と同等かそれ以上となっており、高い収益率となっています。
 ⑦ 職員給与費対医業収益比率は、類似病院平均値より低い値となっており、効率的な病院運営が実施できています。
 ⑧ 材料費対医業収益比率は、当院は院内処方を実施しているため、類似病院平均値より高い値となっています。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似病院平均値と近く、適切な数値と考えます。
 ② 器械備品減価償却率は類似病院平均値を大きく下回っておりますが、令和2年度は電子カルテシステム等を更新したため、償却率が低下しました。
 ③ 1床当たり有形固定資産は、平成27年度に完了した第4次整備事業の影響により、類似病院平均値を大きく上回っています。

全体総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴う受診控え等の影響により受診者数が減少しましたが、経常収支比率は100%以上を維持することができました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症については予断を許さない状況が続くと見込まれるほか、市内人口の減少や医師の不足などにより、経営状況は一層厳しくなっていくものと予想されます。病院経営を安定的に行うため、高い病床利用率を維持するとともに、病診・病病連携などによる新規患者獲得や経費削減に取り組み、経営の健全化に努めていきます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。